

## 戦争反対宣言

戦争は恐怖である。戦争は、苦勞の末に獲得した人権を踏み躪る怪物である。戦争は存在の絶対的な底辺です。文明があつた場所を、黒焦げの汚染された土地に変えてしまいます。戦争は共同生活の失敗、政治システムの失敗を露呈します。戦争は市民権の否定です。戦争は人間性を貶めるものであり、誰もがそれを知っています。しかし、軍事的破壊の衝動の残響は、常にあらゆる社会、あらゆる個人を脅かしています。21世紀において、1948年12月10日に採択された「世界人権宣言」を受け入れた主権国家が、人権が守られないことを許すのはなぜでしょうか？

## 法原則

ヨーロッパの文化的発展は、1789年8月26日にパリで採択された人権宣言に定められた法の下での平等原則から切り離して考えることはできません。法は、権力差の調整を通じて形成されてきました。実際、芸術作品、建物、音楽、家屋、道路、広場、公園などは、このヨーロッパの文化意識の可視的で触知可能な証言です。この文化意識は、法の下での平等によって育まれ、成長してきました。法原則は抵抗の言語です。

## ホメロス

ホメロスは、古代ギリシヤ世界のラツパー（歌いながら詩を語る詩人）の中でも最も称賛された人物で、紀元前800年から600年にかけて、地中海東岸を旅しながら即興で歌い回りました。生き生きとした伝承を通じて、聴衆は歴史的な瞬間や伝説的な神話的人物に浸り、人生の問い、悲しみ、愛、復讐、戦い、郷愁を共有しました。伝承された二つの長編叙事詩、『イリアス』と『オデュッセイア』は、旅の物語を描いています。アキレスのトロイへの旅は、怒り、恨み、復讐、戦い、死への省察に満ちています。オデュッセウスのトロイの戦い後の帰還は、故郷の島イサカへの旅であり、その家は *hospitality*（ゼニア）の象徴となり、友情の拠点となります。

ホメロスは、この長大な叙事詩を通じて、野蛮と文明の差は、友情が生まれる「もてなし（ゼニア）」にあることを教えてくれました。ヨーロッパに確立された法体系は、隣人を招き、飲食物を提供する地中海式の食卓なしには考えられません。

## 法律/ノモイ

アテネのアケメニア（哲学者プラトン（紀元前428年頃～紀元前348年）が紀元前387年に設立）の時代から、文化生活は、口承のヘレニズム伝統である歌、神話、詩から、書かれた反射的・批判的な言語への移行によって特徴付けられました。アテネのアカデメイアは言語を哲学の素材としました。真実と虚偽、正義と不正の区別は、書かれた対話を通じて論証と推理によって見出されました。

プラトンは、ソクラテスが紀元前399年に自殺した後、アテネの市議会が彼に死刑を宣告した判決への反応として、*ダイアローグ*の執筆を開始しました。プラトンは15年間何もすることができませんでしたが、それは彼に法律の着想を与えました。*Nomoi* は、法が最高権力となり、専制政治が許されない架空の植民地（*Magnesia*）のための設計案です。ここでは人々が互いに話し合い、協議します。これはプラトンが書いた最後の長編対話です。法は対話の産物です。

## マグナケカルタ

英仏戦争は、国王と土地所有者との協力が必要としました。土地所有者は兵士を動員し、戦費を負担しました。25人の土地所有者からなる評議会が結成され、王の権力を法に縛る協定を策定しました。1216年10月12日に制定された『マグナケカルタ』には63の法規則が含まれていました。その一つである『ハベアスケコルプス』は、裁判所の命令なし

に逮捕されない権利を定めました。権力との紛争において裁判官の介入は、以来ヨーロッパの法体系に定着した法的原則です。

## 戦争と平和の法/De iure belli ac pacis

Hugo Grotius (1583-1645)は、暴力による支配の政治的ジレンマに語義的な解決策を提示しました。1625年に刊行された彼の著書『De iure belli ac pacis』において、彼は、海上での戦争、海外領土の併合、他民族の支配は、善意の人間の権利であると主張しました。17世紀のキリスト教信仰は、神の善の地上における代表であり、したがって支配は善の拡散であると考えられました。彼の著作は、海外貿易会社による「正当な」暴力による統治の指針となりました。この「植民地憲章」は、オランダ連合州議会によって制定されました。

貿易会社は、征服した海外地域を現地の規則に基づいて統治する自由を与えられました。彼らが植民地で法律と規則を制定し、独占を強制し、軍事行動を実施し、独自の軍事裁判所を設立しました。戦争の権利は支配者の権利でした。植民地憲章は植民地を共和国の法秩序から除外しました。グロテイウスの戦争法は、民族間の支配と権力不平等を確立する基盤を築きました。

1667年8月5日、オランダの州議会は永遠の勅令を採択し、最高軍事職と総督職の兼任を禁止しました。勅令の起草者には、総督の主権を制限することを主張したデケウイット兄弟が含まれていました。1672年8月20日、彼らは二人とも暗殺され、その遺体はリンチに遭い、ハーグの刑務所門前の絞首台に吊るされました。バールーフテスピノザ(1632-1677)は、その夜、紙に『ultimo barbarorum』と書きました。

## 三権分立

1748年の三権分立は、シャルルケドケモンテスキュー(1689-1755)の『デケロイケデケロク』で提唱された法原則です。モンテスキューも、プラトンに倣い、独裁者の専制から社会を守ることを目的としていました。立法権、行政権、司法権の分離は、権力の分立のために必要でした。モンテスキューは、グロテイウスと同様に、植民地貿易会社が次第に成功を収める遠方の植民地地域に目を向けていました。彼が描いたビジョンは、異なる文化、言語、神々を持つ開かれた広大な世界であり、人間の「自然理性」によって繁栄がもたらされるといふものでした。彼の『三権分立』は、権力の分配に関する市民法モデルとなり、教会の排他的なキリスト教的道徳と王の神聖不可侵性を無効化しました。

しかし、三権分立は植民地地域には導入されませんでした。ヨーロッパの法思想では、依然として二つのシステムが並存していました：市民社会のための平等原則に基づく法秩序と、他者を支配するための武力による植民地支配秩序。この二つのシステムは、原則として互いに相容れないものでした：法による文明のモデルと、軍事力による支配のモデル。

## 人権宣言/市民の権利宣言 (Déclaration des Droits de l'Homme et du Citoyen)

1789年にフランス革命で宣言された人権宣言は、市民が自らの声を聴かせ、利益を尊重されるべきだと理解し、要求した時代に登場しました。国家の暴力に対する反乱は、新たな法原則である法の下での平等をもたらしました。国家と支配者間の権力均衡の追求は、今や民衆によって要求され、明確にされました。人権の記述により、より高い中央権力への服従の意思は失われました。この新しい革命的な社会思想は、新たな社会における階級関係の変革への意識を開きました。

4年後、1793年1月21日、国王ルイ16世は国民公会による3回の投票で裁判を受け、ギロチン刑に処され、首を刎ねられました。マリー・アントワネットもギロチン刑に処され、1793年10月16日に首を刎ねられました。彼らは暴動の鎮圧、公共の自由に対する陰謀、

外国勢力との共謀の罪で告発されました。彼らは民衆を裏切ったとされました。司法権は王から市民に移りました。

1804年の『ナポレオン法典』は、このフランス市民権を体系的な法典として強化したもので、平等、財産権、契約の自由が詳細に規定されています。ナポレオンが支配した地域では、市民は『市民法典』を擁していました。

## 戦場と数百万の死者

19世紀は、ヨーロッパ大陸で繰り広げられた数多くの戦争による血の惨事でした。1804年から1815年のナポレオン戦争では、軍人ケ市民合わせて350万人から650万人の犠牲者が推定されています；1816年から1864年のカフカス戦争では推定10万人の犠牲者；1821年から1829年のギリシヤ独立戦争では推定80万人の犠牲者；1870年から1871年の普仏戦争-1871年の戦争で推定18万から50万人の犠牲者、その後天然痘のパンデミックで推定50万人の犠牲者；1853-56年のクリミア戦争で推定50万から75万人の犠牲者。

ヨーロッパの国家元首たちは、軍最高司令官としての役割を果たし、軍首脳部と緊密に協力しながら、ゆつくりとだが確実に高まる社会意識に直面しました。軍事的暴力と戦争は市民社会において望ましくないという認識に直面しました。この時、軍事産業はますます暴力的な破壊的な軍隊に、連発銃、長距離砲、重爆弾、機関銃、機械化輸送、電信通信を供給していました。

## 社会契約/Du Contrat Social と新しい教育学について

戦争の暴力により、人間像は深刻な圧力を受けていました。戦争では、人々は命令に従って大量に殺し合っていたからです。ジヤン＝ジヤックケルソー（1712-1778）は、人間像を内側からではなく外側から定義しました。人間は環境によって形成されるため、個人が成長する環境から暴力と抑圧を排除することが必要だと主張しました。彼は1762年の『社会契約論』で、市民は互いに社会契約を結んでいると述べました。この契約は、個人の義務と自由を拘束するものです。

ヨハンケHケベスタロツチ（1746-1827）はスイスで、この新しい哲学を基盤とした学校制度を確立し、その教育学は子どもの自然な発達を支援することを目的とした。この新しい教育概念は、子どもの発達を妨げる要因を理解することを出発点とした。暴力は、個人の発達を最も深刻に阻害する要因です。彼はこれを「頭、心、手の教育学」と名付けました。人間と環境の調和した関係は、人間と社会の成長に不可欠であると彼は主張しました。1798年、彼はスイスケスタンスに戦争孤児のための学校を設立しました。1805年、彼はジュネーブ湖畔のイヴエルドンに「人民学校」を設立しました。その目的は、すべての子供に教育を提供することでした。

## 共産党宣言

カールケマルクス（1818-1883）とフリードリヒケエンゲルス（1820-1895）は、1848年2月21日にロンドンでこの宣言を発表しました。これは、国家の暴力と抑圧に対する社会的な活動への呼びかけでした。この宣言には、資本主義の既存の権力構造の廃止を目的とした政治プログラムが含まれています。資本主義は、労働者、労働力、原材料の搾取モデルとして定義されています。所有階級に対する革命のみが労働者を解放できる。階級意識が鍵となる概念である：労働者は、労働者階級の法的地位を通じてアイデンティティと力を得るために、連帯を通じて抑圧された地位から解放される。抵抗の呼びかけは「あなたたちは鎖以外失うものはない。」であった。平等を実現するための最も必要な条件は、プロレタリアートの団結、土地の私有制と相続権の廃止、累進課税制度、信用、通信手段、交通の国有化、労働の義務化、普遍的教育、児童労働の廃止です。抑圧に対する最も効果的な抵抗の形態はストライキです。

『共産党宣言』が国家法と法原則に与えた影響は巨大だった：階級意識の代わりに服従、団結の代わりに闘争、国際主義の代わりに民族主義、教育の代わりに信仰、労働者の代わりに支配者、変化の代わりに順応、法の規則の代わりに権力。

## ジュネーブ条約

1864年8月22日、ジュネーブ条約が署名され、国家は兵士への人道支援を促進する義務を負うことになりました。これは、アンリケデュナン（1828-1910）の市民運動によるもので、赤十字の設立とジュネーブ条約の提唱を通じて、人道戦争法を確立しました：看護師、医師、救急車、病院は、中立の原則の下で活動しました。

## 国民教育

政治レベルでの社会改革は、教育方法をさらに抜本的に見直さなければ不可能であることが明らかになりました。ペスタロッチによる教育学の取り組みがさらに発展しました。マリアケモンテツォーリ（1870-1952）は、医師としての教育を経て、後に人類学者として、子どもの発達段階への注目を新たな教育プログラムに発展させました。彼女は1907年1月6日、3歳から6歳までの子どもを対象とした最初の『*Casa di Bambini*』（子どもの家）を開設しました。フランシスコケフェレール（1859-1909）は、マリアケモンテツォーリの同時代人で、1901年にスペインで最初の世俗的な学校である「*Escuela Moderna*」を設立しました。この学校は男女混合クラスで、教育は宗教や教会によって強制されるのではなく、子どもの自由な発達に基づいたものでした。彼は合計で50校ほどの学校を設立しました。

フランシスコケフェレールは1909年、バルセロナで偽の告発により軍事裁判所で死刑判決を受け、1909年10月13日に銃殺されました。彼はカタルーニャの反宗教権力蜂起を扇動した罪で告発されました。教会は、批判的な市民の声の排除のために軍事力を動員しました。彼の処刑は、ヨーロッパ全土で数十万人のデモ参加者と数千人の逮捕者を伴う大規模なデモを引き起こしました。

## 平和会議

平和会議の提唱者は、ロシアのニコライ2世皇帝で、繰り返される経済危機を終わらせ、戦争を引き起こし、国を破滅させる状況を阻止するためでした。軍隊は拡大し、武器は大量生産され、大国間の持続的な不信感、破壊的な工業化戦争のリスクを高めていました。ニコライ2世は、銀行家イヴァンケブロフ（1836-1902）が1898年にパリで出版した『戦争の未来』という本を贈呈されました。この本でブロフは、破滅的な軍事国家の危険性を警告していました。

しかし、真の平和主義は社会から生まれ、残酷な軍国主義に対する社会的・道徳的な反発によって形成されました。ベルタケフオンケズットナー（1843-1914）はヨーロッパの平和運動の象徴であり、1889年にドレスデンで平和主義の呼びかけ『武器を捨てよ』を出版し、拡大する平和運動における重要な声となりました。

1899年にハーグで開催された第1回国際平和会議には、26カ国から300人の参加者が集まりました。以下は、ベルタケフオンケズットナーと彼女のフェミニストで平和主義者の友人アニタケアウグスブルグ（1857-1943）です。彼女は弁護士としてローザケルクセンブルク（1871-1919）と協力し、マルガレーテケゼレンカ（1860-1922）は人類の進化に関する人類学的研究を行いました。そして、彼女の友人であるイヴァンケブロツホも支援し

ました。彼女は日記に、戦争、暴力、抑圧を廃止するためには「新しい人間が誕生しなければならぬ」と記しています。

ハーグ条約には、国家間の紛争を平和的に解決するための条約が含まれていました。この宣言には、毒ガスとイギリスのダムダム弾の使用を禁止する条項が盛り込まれていました。1907年には第二回ハーグ平和会議が開催され、国際紛争の仲裁が義務化されました。1913年には、ハーグに平和宮が開設されました。ここには、国家間の紛争を裁く仲裁裁判所が設置されました。ヨーロッパの政治は、これで効果的な平和政策を推進できるようになった。フエルデイナントケドメラケニウエンハウス（1846-1919）、オランダで最も有名なアナキストで、戦争と軍国主義の激しい反対者は、挑発的に叫んだ：「平和宮が開かれた、戦争が始まる！」

## 反軍国主義

ローザケルクセンブルク（1871-1919）とカールケリープクネヒト（1871-1919）は、1848年の共産党宣言を基盤に、ドイツにおける反軍国主義運動を主導しました。彼らの分析によると、資本主義、そしてそれに伴う階層的な階級社会は、軍国主義と抑圧的な植民地政策に支えられています。資本主義の廃止は、軍国主義の廃止、武装の廃止、植民地の廃止なしには不可能である。

彼らの反軍国主義は、フランス革命の史家であり、階級闘争の主要な提唱者であったジャンケジヨレス（1859-1914）と共有されていました。1914年7月29日、ブリュッセルで開催された社会主義インターナショナル事務局の第16回会議において、ローザケルクセンブルクとオランダのピエテルケトロエルストラ（1860-1930）も出席した中で、彼は軍事的エスカレーションと戦争に反対するヨーロッパ総ストライキを呼びかけました。ジャンケジヨレスは1914年7月31日、パリのモンマルトル通りにあるカフェのテラスで、若い民族主義者に暗殺されました。3日後の8月3日、第一次世界大戦が勃発しました。

戦争は絶え間ない証言の流れを生みました：兵士、看護婦、市民、作家、詩人たちは、戦争の現実、恐怖、暴力の狂気を詳細な記述で報告しました。有名な記述の一部には、アンリケデュナン『ソルフエリーノの思い出』（1862年）、アンリケバルブス（1873-1935）『地獄』（1908年）と『火』（1916年）、カールケリープクネヒト『軍国主義と反軍国主義』（1907年）、ローザケルクセンブルク『刑務所からの手紙』（1916年）、ギョームケアポリネール（1880-1918）『コート146』（1914年）などです。これらは、戦略家や将軍による古典的な英雄的な記録ではなく、現実の直接的な描写でした。1916年7月1日から11月18日までのソンムの戦いで、4ヶ月半の間に170万人の兵士が命を落とした。イギリスは42万人、フランスは20万人、ドイツは45万人の兵士を失った。第一次世界大戦は1918年11月11日に終結しました。

書かれた証言——手紙や詩から物語、報告、日記、伝記、遺言書まで——は、人間の深い絶望の灰色の現実を浮き彫りにしました。これらの市民作家は、戦争と軍備の廃止が平和な生活のための唯一の選択肢であると結論付けました。

ローザケルクセンブルクとカールケリープクネヒトは、1919年1月15日にベルリンで逮捕されました。彼らは、社会民主党において、そして1915年からは過激派のスバルタクス団において、革命的な反軍国主義的な立場を主張していたためです。彼らの葬儀は1919年1月25日、38人の同志と共に埋葬され、ベルリンを舞台にした大規模な葬列とな

りました。この光景は、カテケコルヴィッツ（1867-1945）の日記に次のように記録されています：「彼らは集団墓地に埋葬された (...) 墓の周囲は人だかりで埋め尽くされていた。」

共産主義とアナキズムのヨーロッパは、国家の軍国主義に対する闘いをさらに激化させました。これは、社会的不正義への意識が高まり、国家の暴力に対する民衆の憎悪がますます強まったためです。

## ヴェルサイユ平和条約

1899年と1907年の平和会議は、国家間の政治的協議を正常化し、国際紛争の仲裁を義務付けました。平和運動はこの方針を歓迎しました。しかし、ヨーロッパ諸国は戦争を回避できませんでした。

第一次世界大戦後の平和交渉（1919年1月18日から6月28日までパリで開催）は、当時の政治指導者に、戦前の平和思想を強制力のある国際法文書に転換する明確な任務を課しました。アメリカ合衆国大統領ウッドロウ・ウィルソン（1856-1924）は、*国際連盟*（*League of Nations*）の設立により平和を確約するため、パリに自ら赴きました。これは、すべての国が主権と独立の権利によって保護される「民族の共同体」として統一される連合体でした。植民地支配の廃止、一方的な国家利益の力の排除、軍備の必要性の否定が掲げられました。『条約』（1920年1月10日発効）には、*領土の不可侵原則*に加え、*委任統治制度の憲法*が含まれていました。外国の支配下にあった植民地は、戦争の勝利者（先進国）によって独立への準備が整えられました。国際連盟の*理事会*は、これらの民族が自ら独立する準備が整っていないとされた場合、その独立への法的プロセスに必要な「*権限、支配、または行政の程度*」を決定しました。古いヨーロッパの支配者ケ被支配者の力関係は、国際法思想の基盤を成し続けており、その結果、委任統治下にある住民にとって暴力の正当性は現実のものとして残りしました。

アメリカ合衆国は、*国際連盟*に加盟しませんでした。アメリカ合衆国上院は、自国の大統領ウッドロウ・ウィルソンが作成した条約を、1919年9月16日に否決しました。この明白なアメリカナショナリズムの結果、自衛の名目下の戦争と軍備拡張は継続されました。

新しい「委任統治地域」のアラビア人とアフリカ人の住民は、新たな国境、任命された統治者、そして自らの未来に関する不明確な展望を一方的に押し付けられたことに、大きな不満と不信感を抱きました。この不満は、ヨーロッパの平和運動からも憤慨をもって注視されました。

## 戦間期

1919年から1939年までヨーロッパは平和でした。法の支配の強化がさらに進められました：1921年 *ワシントン海軍軍縮会議*（戦艦の規模制限）、1923年 *ローザンヌ条約*（空軍に関する条約、空軍への戦争法適用）、1925年 *ジュネーブ議定書*（化学兵器禁止）、1929年 *ジュネーブ条約*（負傷者ケ病者の兵士への待遇と戦犯の保護に関する規定）。

しかし、これらはヨーロッパ諸国が同時に国家利益と覇権争いのために軍事力を拡大するのを妨げなかった。第一次世界大戦は、戦争産業にとって武器のさらなる開発の試金石となった：戦車、ブルドーザー、榴弾砲、機関銃、対戦車砲、戦闘機、爆発物、および核分裂。

## 核分裂

イギリスでは、アーネスト・ラザフォード（1871-1937）がマンチェスターのヴィクトリア大学で1909年から1917年まで原子分裂の研究に従事しました。1917年に彼は原子を成功裡に「分裂」させました。これは原子物理学の始まりであり、すべての著名な原子物理学者が原子爆弾の実現に向けて研究を続けることになった。

## 北大西洋条約

1941年8月14日にアメリカ合衆国大統領フランクリン・ルーズベルト（1882-1945）とイギリス首相ウィンストン・チャーチル（1874-1965）によって制定された大西洋憲章は、戦後の権力分担を定めた法的文書であり、アメリカとイギリスが戦後国際社会において同等の役割を果たすことを定めた。（1874-1965）によって作成された文書は、戦後の勢力分担を定める法的文書であり、アメリカとイギリスが戦後の国際組織（国際連合）において同等の役割を果たすことを決めました。ルーズベルトとチャーチルは、憲章の文言を策定するため、13回の秘密会談を行いました。大西洋憲章宣言は、アメリカ軍基地であるニューファンドランドのアルジェンティアで発表されました。憲章は、以下の点を決めました：アメリカとイギリスによる領土の拡大は行わない、領土の変更は関係する住民の同意を得て行う、すべての民族は自決権を有する、貿易障壁の撤廃、世界的な経済協力と社会福祉の向上、参加国は貧困と恐怖のない世界を目指す、参加国は海洋の自由を推進する、侵略者の武装解除と戦後の一般武装解除。

イギリスの核分裂プロジェクトは、ニール・スケーボア（1885-1962）を通じてアメリカ合衆国に持ち込まれました。1939年、アメリカ軍主導でマンハッタン計画が開始され、ロバート・オッペンハイマー（1904-1967）が科学責任者を務めました。原子爆弾の製造決定は事実となりました。1945年6月16日、ロスアラモス近郊で、プルトニウム核爆弾「トリニティ」の核爆発実験が成功しました。

テッド・ホール（1925-1999）マンハッタン計画のチームで最も若い科学者は、この破壊的な兵器が米国に与える力が世界平和を脅かすことを理解していました。1944年10月20日、19歳の時にロシアのスパイとなり、プルトニウム核爆弾の製造に必要な情報を成功裏に伝達しました。

## 国際連合；世界人権宣言

第二次世界大戦は、同盟関係の変容により国家間の力関係を変えました。ヨーロッパは政治的・経済的に弱体化していました。アメリカ合衆国は1945年10月24日、サンフランシスコで国際連合（国際連盟の代替機関）を設立し、その設立条約は51カ国によって署名されました。安全保障理事会 *Security Council* は、1946年1月17日にロンドンで設立され、国際の平和と安全の維持を主な任務としています。常任理事国は、米国、英国、ロシア、フランス、中国です。

複数の平和条約が締結され、その最初のもは1947年2月10日にパリ条約として署名されました。1948年12月9日、ジェノサイドの防止と処罰に関する条約が採択されました。この国際条約は、国家がジェノサイドを犯罪として処罰することを宣言するものです。この条約は、国家にジェノサイドの追及と防止を義務付ける最初の法的手段であり、全会一致で採択されました。1948年12月10日、1789年のフランス革命で定められた人権が、ついに普遍的な権利として宣言され、パリのパレドケシヤイヨで開催された国連第3回総会で採択されました。この作業は、18人の委員からなる委員会が1年半以上にわたり行われ、委員長はエレノア・ルーズベルト（1884-1962）でした。彼女は、大統領ルーズベルトの未亡人でした。パレドケシヤイヨは象徴的な場所でした。アドルフ・ヒトラーは1940年のパリ占領時の勝利行進中に、テラスで自身を撮影させ、背景にエッフェル塔を写した写真を残しています。世界人権宣言は、すべての51の加盟国に送付されました。基本的な法的原則は、平等、個人の自由、および生命の権利でした。

『世界人権宣言』は後に、1966年12月16日に採択された2つの人権条約に分割されまし

た：『市民的および政治的権利に関する国際規約』と『経済的、社会的および文化的権利に関する国際規約』。

## 戦争犯罪

1939年から1945年までの第二次世界大戦は6年間続き、世界中で5500万人の犠牲者が出ました。そのうち半数は民間人でした。アメリカ合衆国は1945年8月6日に広島、8月9日に長崎に原子爆弾を投下しました。1945年8月8日、ロンドンで*国際軍事裁判所*の設立を定める憲章が署名されました。この裁判所は、イギリス人判事G. ローレンス(1880-1971)を議長として、ナチス容疑者(大臣や軍指導部を含む)の裁判を行うため設立されました。起訴内容は「平和に対する罪」「戦争犯罪」「人道に対する罪」(戦争の文脈において)。*軍事裁判所*は、1945年11月20日から1946年10月1日までニュルンベルクで12回の公判を開き、22人の被告が起訴され、そのうち12人が絞首刑に処されました。

1946年5月3日、東京で*国際軍事裁判所(極東)*が、オーストラリアのウィリアムケウエブ(1887-1972)を議長として開廷しました。この裁判所は1948年11月12日に終了しました。軍と政府の指導者28名が起訴され、そのうち7名が絞首刑に処せられました。日本の天皇は起訴されませんでした。

## NATO: 北大西洋条約機構

1949年4月4日に設立されたNATOは、1941年の*北大西洋条約*に基づき、アメリカ合衆国大統領ドワイトケアイゼンハワー(1890-1969)の主導でワシントンで12カ国によって署名されました。これは、資本主義諸国が共産主義ロシアに対する集団防衛条約であり、直接的な軍事衝突を回避したため「冷戦」と呼ばれるイデオロギー的対立でした。両「陣営」は核兵器を保有していました。1955年5月14日、ワルシャワ条約が*北大西洋条約機構*の対抗組織として設立されました。

NATOは、政府間軍事同盟です。その目的は、加盟国の自由と安全を政治的・軍事的手段で保障することです。組織は2つの部門から構成されています：民事・行政部門(*北大西洋理事会*、*核計画グループ*、*国際スタッフ*)と軍事部門(*軍事委員会(戦略)*、*指揮作戦*、*指揮変革(防衛計画)*)。本部は当初ロンドンに置かれていましたが、1966年にフランスが脱退したため、1967年にブリュッセルに移転しました。最高司令部(Supreme Headquarters)は、1967年からベルギーのモン北部のカステウに所在しています。1949年から2004年にかけてのNATOの加盟国拡大(12カ国から32カ国)：1955年に西ドイツ、1999年に東欧諸国、2004年にポーランド、ハンガリー、バルト三国。

## 欧州評議会

1949年5月5日、10カ国のヨーロッパ諸国の発案により、ロンドンで*欧州評議会*が設立されました。これは、ヨーロッパにおける平和の維持と人権の尊重を目的とする国際機関です。本部はストラスブールにあります。*欧州条約*は1950年11月4日にローマで署名されました。この条約では、条約締結国のすべての住民の人権と市民権が*欧州人権条約(ECHR)*に盛り込まれています。*欧州人権裁判所*は1959年1月21日にストラスブールに設置されました。

*欧州人権条約*には、重要な法的原則である第3条から第8条が定められており、*生命の権利*と*個人の不可侵性*が規定されています。*自己決定権*はこの基本権の一部を構成しています。これに関連して、*死刑の禁止*と*拷問の禁止*が定められています。また、国家の保護義務も規定されており、これは国家がこれらの権利を保護するために積極的に行動しなければ

ばならないことを意味します。欧州裁判所は人権の遵守を監視しています。

## 法の基本原則

国家が法と裁判所に拘束される主要な法の基本原則は、以下の通りです： **合法性の原則**（国家は法に拘束される）、 **法確実性の原則**（国家の明確な規則）、 **平等原則**（すべての人は法の前で平等である）、 **注意義務の原則**（国家は意思決定において注意を払う）、 **理由説明原則**（政府は決定の理由を説明する）、 **信頼原則**（政府は市民の信頼を得なければならない）、 **フェアプレイ**（政府は市民を公平に扱う）、 **比例原則**（政府の措置の結果は市民に過重な負担を課してはならない）、 **司法へのアクセス**（市民は裁判所に訴える権利を有する）。

## ラッセルケアインシュタイン宣言

1955年7月9日、ロンドンで物理学者グループによりラッセルケアインシュタイン宣言が発表されました。この宣言は、共産主義と反共産主義の間の核兵器使用を伴う武力衝突を警告し、国際紛争の平和的解決を強く訴えるものです。署名者： マツクスケボルン、パーシーケWケブリッジマン、アルベルトケアインシュタイン、レオポルドケインフェルト、フレデリックケジヨリオ＝キユリー、ハーマンケJケミユラー、リナスケポーリング、セシルケFケパウエル、ジヨセフケロトブラット、バーナードケラッセル、湯川秀樹。

「(...) 私たちは、世界の政府が、その目的が世界戦争によつて達成できないことを認識し、公に認めるよう求めます。したがって、私たちは、彼らが相互の紛争を平和的な手段で解決する方法を模索するよう求めます。」

ロバートケオツペンハイマーは署名拒否。

## 法治主義対軍国主義

「冷戦」は、1989年11月9日にミハイルケゴルバチヨフ（1931-2022）の下で共産主義のソビエト連邦が崩壊し、ベルリンの壁が崩壊することで終結した。すべての人権が尊重され、これに伴うすべての基本的人権が守られる世界を実現するため、あらゆる努力が払われるべきです。国際連合の人権宣言では、...「普遍的な人権と基本的自由の尊重と遵守の促進...」が、人類を暴力から解放する希望として明記されました。

1941年の『大西洋憲章』と1949年のNATOの設立、および原子爆弾の開発は、人権が国家安全保障と国家間の力関係の維持に subordinate される全く異なる世界観を反映しています。国家間の軍事同盟は、軍事的暴力を行使する手段として外部からの侵略を牽制する軍隊の忠誠心に依存しています。この結果生じる軍備競争は、軍隊間の力関係を維持するために領土戦争を遂行する手段として不可欠とされています。NATOの軍事戦略は、加盟国の代表からなる理事会を通じて、軍事力の使用に関する政治的決定に至ります。これにより、権力紛争の解決のための暴力の使用が正当化されます。

軍事力の行使は、定義上、司法権によつて保護されるべき普遍的人権に対する重大な侵害です。（NAVO軍隊によつてではなく）

これが、ジュリアンケアサンジ（1971年生まれ）が2006年にウイキリークスを通じて公開した動画『Collateral Murder』で、アメリカ軍による戦争犯罪を告発した内容です。アサンジは2010年から2024年までの14年間、アメリカ政府の諜報活動容疑で追跡され、終身刑が科せられる可能性のある容疑で起訴されました。彼は2012年から2019年までエクアドル大使館で庇護を受け、2019年から2024年まで嚴重に警備されたベルマーシェ刑務所に収監されました。これは、エドワードケスノーデン（1983年生まれ）が、NSA（国家安全保障局）のCIA職員として、市民に対する不当な政府監視を暴露したことで告発した内容でもあります。スノーデンは2013年6月23日に香港からロシアに逃れ、以来同国

に滞在しています。

市民は、あらゆる戦争によって人権を剥奪されます。これは、自由の代償として彼らに売りつけられる犠牲です。市民は、国のために戦い、死ぬよう呼びかけられます。市民は、国家税を通じて武装と戦争の費用を負担し、これにより、社会的、社会的、文化的生活の必要不可欠な支援が犠牲にされています。すべての法原則は暴力の行使によって侵害されます。勃発するあらゆる戦争は、人権の究極の侵害です。

国家の武装解除は法原則の実現に不可欠であり、国家の武装解除は法治国家の繁栄の条件です。

エインホーフエン 2025年8月18日

ヘンクケヴィツシユ/イレーネケフエーンストラ